

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.20〉

〈黒石① 特徴〉

黒石地区は、宇部市の西側、厚南平野のほぼ中央に位置する。1994年に市内で21番目の校区として誕生した。2020年の出生数は139人で市内1位。高齢化率は市内で最も低い（22年4月時点）。多世代が暮らし、商業施設もあつて活気にあふれている。国道190号が東西、県道宇部船木線が南北に走っており、行き交う人も多い。住民たちはイベントを通して絆を深めている。

出生数市内1位、多世代暮らし



歩こう会で厚東川沿いを散歩しながら交流する住民たち（東割）

転入世帯との連携必要

94年の黒石小開校に伴い、厚南と西宇部、原の一部を含めて校区となった。黒石、塩屋台、小畑領、東割、中野開作、泉町、城野、西割、松津の9自治会で構成。99年には黒石ふれあいセンターが開館した。もともと厚南平野は、



黒石

基本データ

- 面積5.19平方キロ（14位）
- 世帯数4447世帯

- 人口9785人（7位）
（男性4769人、女性5016人）
 - 高齢化率22.4%
 - 小学校児童数684人
- ※世帯数などは2022年4月1日、児童数は23年4月1日現在

厚東川の土砂の堆積で、広大な干潟だった。黒石

の辺りは1800年ごろに開作。その名残が堤防の跡として各所に残っている。干拓後、米作りを盛んにするため、毛利藩の直轄事業として厚東川から用水を引くために御撫育（ごぶいく）用水路も造られた。干拓以前の人々は浜で塩作りなどを営んでいた。製塩の燃料に石炭を使い、その灰で台地を形成したことから「塩屋台」の地名が残る。1955年ごろから日本経済の高まりとともに中小の工場ができ、人口の流入が激しくなった。住宅の建設が盛んになる一方で、田園地帯は急速に減少していった。干拓を造成した土地のため海抜が低く、水害による被害が懸念されている。42年の周防灘台風では厚東川が決壊し、300人近い死者と行方不明者が出た。災害を忘れず、防災意識を高めてもらうため、訓練などが熱心に行われている。地区コミュニティー推進協議会の山下則芳会長は「マンションなどに暮らす転入世帯と、長く居住している世帯が情報共有できる場を設けるなどして、一体感の醸成が必要。多世代が住みやすいまちづくりを進めていきたい」と話す。